

～ 森の続きの物語 ～

物語の続きを書こうと思った



欠落した物語を補い導くように



そこには憩いの場

そこには生活の場

そこには人の居場所

この場所に誰かの居場所の為の物語を書こうと思った



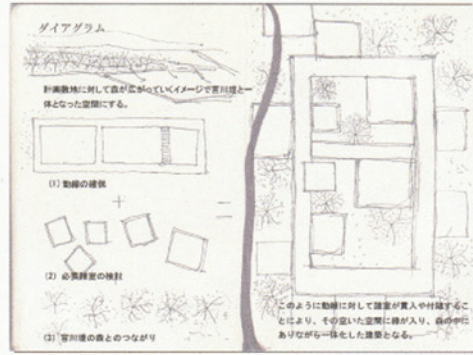
敷地特性

三重県伊勢市を流れる宮川沿いにある宮川堤に今回の計画敷地があります。この場所は堤の名所として知られていて、数百年の板が川沿いに立ち並び生み出す魅力的な空間があります。そして、その道を歩いて行くと最後にたどりつのが今回の敷地です。

この宮川堤は板の名所である為、春には花見客によって賑わいを見せます。しかしそれ以外の季節にはほとんど活用されていないのが現状です。その為季節や行事によって左右されない常に人々が居られる場所が提案できるのではと考えました。

計画敷地は現在何もありません。この場所だけ宮川堤からまるで欠け落ちたかのように只戻った感じがしています。この場所に、森の中の物語の最後を締めるもの計画します。





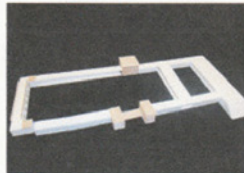
(1) 敷地概要



住所 三重県伊勢市中島2丁目
敷地面積 約 5500㎡
指定区域 第1種住居地域

二つの堤防に挟まれるように凹んだ形をした敷地で東側は約4mの丘、西側は約3.6mの丘となっている。この地形高低差を生かして立体的に人の動きを誘導演出効果を出す。周辺の住宅とは地上レベルが違う為、この敷地だけ取り残されたようになっていて、周辺に高い建物がないため1日の変化が分かりやすい、特に対岸に沈む夕日は絶景である。

(2) 構成要素



今回の設計では動線の演出が主要なものとなる。動線の幅は大部分が3.6mの柱間であり、この規模建築の動線としては比較的大きな幅となる。これは動線自体がセミパブリックスペースとして活用され、また隣接する空間のサポートスペースとしても活用できるように考慮している。動線に対して空間が付随・買入する造形は、動線を歩いて行く連続的に場面が切り替わる、それはまるで森の中を歩いているような物語性を生み出す。

動線



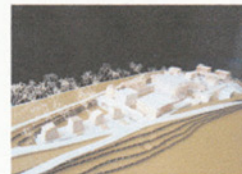
必要諸室



森の現状

面積表					
動線	732㎡	事務所	97㎡	倉庫	32㎡
住宅	847㎡	機械室	49㎡	トイレ	65㎡
工房	170㎡	図書室	52㎡	倉庫	65㎡
大ホール	175㎡	販売所	52㎡		
小ホール	52㎡	カフェレスト	90㎡		
食堂	52㎡	事務室	13㎡		
+ 延床面積		計		2543㎡	

サクラが約200本以上あり、エノキやヒノキ・くぎといった木も垣間見られる、規則正しく立ち並ぶのではなく密度の濃い部分や薄い部分、明るい部分と暗い部分があり、一様ではない空間になっている。そして、ここにある木と木の平均的距離は約6mとなっておりこの距離を一つの目安とする。



完成作品
406717 祖父江功典

設計過程



1. 現在の敷地は閑静な状態、ここに人々の活動の拠点となる施設を設計する。



2. まず動線となる空間を確保する。周囲の東西二つの道を繋ぐ動線も用意し公園との繋がりを保つ。



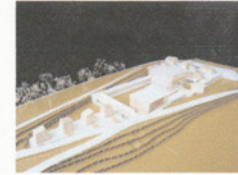
3. 2で用意した動線を伴う空間・緩衝空間として用いて、その動線に付随して目的空間となる大ホールを配置する。



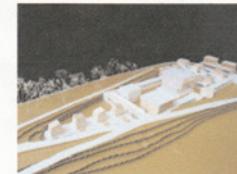
4. ギャラリーと喫茶店のある施設を配置する。この施設は公園の一部として鉄道を提供する。



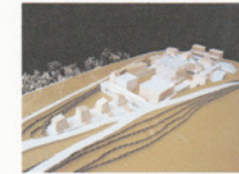
5. 工房を配置する。この目的空間は周辺の敷地に合わせるために、動線に対して買入して配置される。



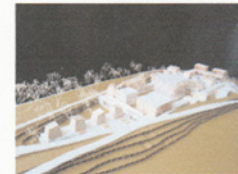
6. 集約住宅を配置する。動線に接しながら、一つ一つの住宅に木々の入る趣向を作る。森の一部を再現する。



7. 3階部分を配置する。高さの変化をつくることで一様でない街並みをつくりだす。



8. 今までの流れの様に、確保された動線に対して緑の感覚を醸し出す。必要十分な目的空間を配置していく。

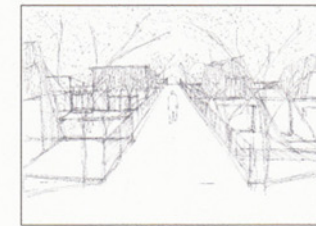


9. このように配置され、そしてその動線に緑が醸成されることによって、森と一体になった一つの施設として完成する。

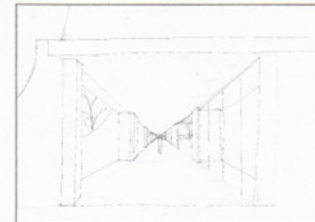
それぞれの居場所



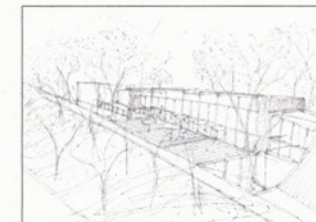
夕日が見える場所



東西を繋ぐ動線

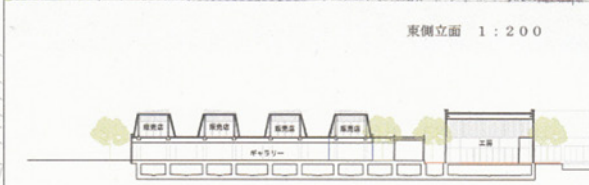
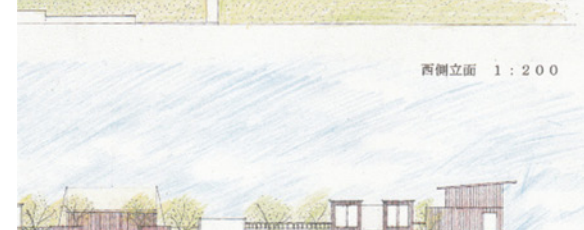
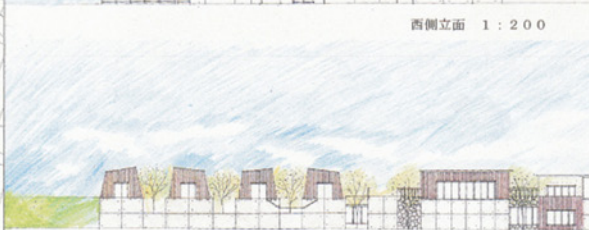
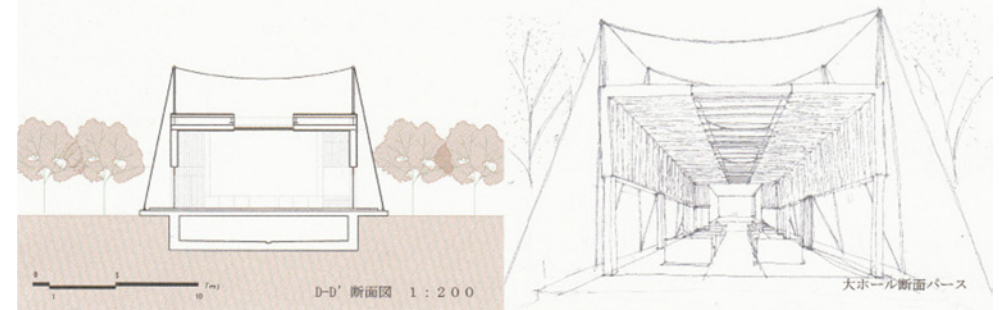
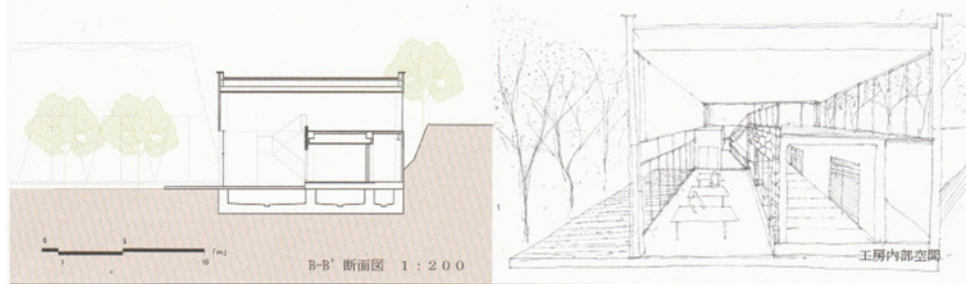
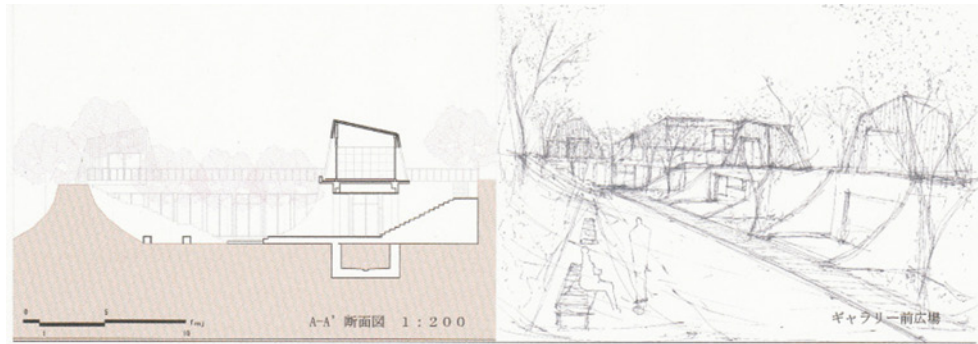


ギャラリー内観



森の中のカフェ





春には桜が咲き
 夏には深緑に包まれ
 秋は紅葉に包まれ
 冬は夜空を見上げる
 四季それぞれの中で
 それぞれの人たちが
 それぞれの場所を見つける